

集落支援員だより

第25号

発行者 東和地域集落支援員
連絡先 66-2490
発行日 令和4年4月26日(火)



繊細な葉タバコ栽培

戸沢根柄山の佐藤さん宅では、祖父の代からタバコ栽培を行っており、当時は養蚕、稲作も行っていても忙しかったようです。



戸沢羽山区 佐藤幸雄さん 友子さん

現在は、祖母と幸雄さん、奥さんの三大家族で、9反歩の葉タバコの契約栽培をしています。葉タバコは「太平」という品種で、土づくりから細心の注意が必要であり、育成を妨げる雑草の防除も欠かせない仕事のひとつということ。

近年はマルチの方法も新しい技術が開発され、分解マルチ(土に返るマルチ)を導入されている農家もあり、作業効率の向上に役立っているようです。また、葉タバコ栽培は自然が相手の仕事なので、毎年前年

の反省、そして改良を加え、品質の良い葉タバコを生産していく、その繰り返しだそうです。

また東和での葉タバコ栽培農家は現在3戸で、農家を継ぐ次世代の方がいないのが悩みの種であり、体の続く限り頑張っていかなければとっています。

3月末には各葉タバコ農家に稚苗も配布となり、また忙しい一年が始まるといっていました。

東和に温泉!?

旧上川崎村の元郡会議員の佐藤善太氏と元村長の菅野善次郎氏が旧東和村戸沢の田向地内に鉱泉の湧き出る泉を発見し、沸かし湯兼旅籠「田向の湯」として、昭和元年から昭和16年頃まで開湯し賑わっていたようです。

場所は現在の二本松市戸沢字田向地内で、当時は、その場所から西側へ約100メートルのところまで、竹の節をくり抜いた樋をつなぎ合わせ、宮の脇(白鬚神社の東)まで鉱泉を誘引して、当時2階建ての温泉旅館としてお婆さんが切り盛りをしていたようです。雑貨、酒、タバコなどを売り、消防団の人たちも利

用し、酒などは容易に手に入る時代ではなかったが、田舎の抛りどころとして、大いに賑わいを見せていたようです。



戸沢七区 市民との協働事業による 田向の湯看板新設

また、当時は医療関係も発達しておらず、日常の生活でかかりやすい皮膚病「くさ」、「痔」、「疳の虫」などに効果があるといわれ、鉱泉を持ち帰り、患部に塗り、数日で完治したようで、利用する人も多かったといわれています。年月も過ぎた今、田向の湯の旅籠建物は菅野明直氏(戸沢稲場下)宅で譲り受け、今なお当時の面影を醸し出しております。



地域が誇れる道の駅に

私が道の駅ふくしま東和の店長になった際、一つの目標を掲げました。それは道の駅ふくしま東和を「県内一魅力ある道の駅」にすることでした。



道の駅ふくしま東和 店長 三瓶夏樹さん

16年前、道の駅ができた当時は活気に満ち溢れ、いつも賑わいがありました。東日本大震災後はみんな必死に復興しようと頑張ってきましたが、いつの間にか賑わいが薄らいできたように感じられます。私はもう一度、東和の道の駅を元気で賑わいのある、震災前のような元気な道の駅にしたいと思っています。そして、東和に住む人たちに誇りに思ってもらえるような道の駅を目指します。

人がつながり 地域を元気に！

～第1回とうわつながるマルシェ開催～

「好き」「楽しい」「おもしろい」をモットーに、地域のみながつながることができる交流の場をつくろうと、「とうわつながるマルシェ」(代表 久野綾香)が主催し、3月13日(日)に道の駅ふくしま東和で開催されました。(集落支援協働事業補助金活用)

趣味や特技を生かして製作した小物、アクセサリー、イラスト、スイーツを販売する11店舗が出店し、手作り小物のワークショップでは多くのお客様に手作りの楽しさを体験していただきました。子どもが「店長」の「こども縁日」では、射的やスーパーボールすくい子どもたちの賑やかな笑い声が響き、初めてのマルシェをお祝いする赤飯のおにぎりも振舞われ盛会でした。



これからも東和の女性たちによるちょっと楽しい企画を続けていく予定です。

さわやかな風コーナー

本が好き♡

『どんぐり教室』で読み聞かせ

3月に開催された「とうわつながるマルシェ」では役員として活躍くださいました。今回は、多方面で活動されている木丸さんを紹介します。

マルシェの役員として当初消極的だったのですが、代表の久野さんはじめ役員の方々の行動力とアイデ

イアカに刺激を受け頑張れたとのこと。ご自身は、趣味の手芸でビーズのプレスレットとイヤリングを製作販売し、これまでよりも制作意欲の励みとなり、次の販売に向けて作品を作成中とのことです。

幼い頃から本が好きな木丸さんは、昨年より、放課後子ども教室の「どんぐり教室」(東和小学校)に読み手として参加。子どもさんたちの反応がかわいらしく、いろんな本に出合っしてほしい、毎回本を選ぶ時間が楽しみと嬉しそうに語ってくれました。

水色から透明へ

『私たちができるゴミ対策』

東和地域婦人会が集落支援協働事業補助金を活用し、市の「ゴミ対策」の現状や課題を学び、私たちができる「ゴミ対策」について学習会を3月15日に開催しました。安達地方広域行政組合「もとみやクリーンセンター」所長から、喫緊の課題として「ゴミの分別が次の世代につながっていない。分別することで資源化でき、燃える「ゴミ」も減り脱炭素に貢献できるなど「ゴミ」を減らすため多くの課題があることを知りました。特に「プラゴミ」は、以前は水色(廃棄物)2割透明(資源化)8割だったが、今は水色8

また、「木幡へんてんジュニア綱引きクラブ」の保護者代表も務められ、全国大会出場など輝かしい実績を収めています。綱引きは見た目は地味ですが、体幹や下半身の強化になるので、興味のある方の入会をお待ちしていますとのこと。



木幡地区 木丸はる奈さん

割透明2割と逆転したということです。それを受けて、水色のプラゴミを減らすため、ゴミ分別の学習会開催、ゴミステーションに分別方法表示、リサイクルして活用するなど「ゴミ」を減らすことに取り組むことを話し合いました。



もとみやクリーンセンター前にて

- 「集落支援員だより」は、東和地域の情報や地域活動等をお届けしています。
- どんな小さな活動でも取材に伺いますので、載せたい情報がありましたら、集落支援員までご連絡ください。
- 東和支所地域振興課(集落支援員)
- 問い合わせ先: 66-2490(直通)